

別紙1

Aグループ	役割	機能
本館	・みんなの居場所 ・全世代が利用できる ・一人一人の居場所 ・ヒト・モノ・コトをつなぐ出会いを生む ・多様な価値が融合する ・本にアクセスしづらい人たちの利用促進 ・地元を発見し、深く知ることができる入り口 ・まちのシンボルとなる文化施設	・話せる図書館と静かな図書館 ・コミュニティ広場の核になる空間 ・みんなの広場を構築し、その中にライブラリーとインフォメーション機能を ・多機能融合型 ・柏を知るミュージアム機能と融合 ・ラーニングコモンズ ・地元で表現できる場所としてギャラリーホール機能 ・外国人とのコミュニティスペース ・学校図書館への支援 ・大きな会議室 ・大きな駐車場
分館	・人と人とのつながりをつくる ・つながりをつくるための仕掛け(イベント・ワークショップ) ・図書館運営に参加している実感を得られる仕掛け ・小さいコミュニティ形成(子育て支援・助けたい・見守り・サークル活動) ・ママたちがお話しできるスペース ・子どもが遊べる場所 ・不登校児童の居場所 ・大人版TeToTe ・地域の学校との連携(こども司書、図書部) ・こども司書の活躍 ・大学との連携 ・エリア内(外)の情報がすべて分かる場所 ・一部分館を拠点化して中規模分館に(柏の葉、沼南、こども図書館は手賀沼付近に) ・一部分館はエリアの特色を出した資料・配架・企画を	・既存分館はサービスポイントに切り替える ・既存分館はカウンターの出、返却のみ(本は置かない) ・みんなで作る本棚(自分の本棚があると行きたくなる) ・まちライブラリーとして市民主体の運営 ・ゆったりとしたスペース ・カフェを介したつながり ・チラシを配架する(UDC作成資料、市民団体資料、学生の活動など) ・学校図書館の拡充で、親子も行ける場所にする ・(柏の葉)モノづくり、科学館、大学連携の要素 ・(沼南)沼南地域の歴史(郷土資料展示室の機能の一部を引き継ぐ)、自然観察・体験のビジターセンター機能 ・(こども図書館)道の駅しょうなんの隣に移設し、家族連れが来られる場所にする ・バスが目の前にとまる
その他	・図書館運営として人を育てる重要性(つづくを、つなぐ) ・あらゆる情報との出会い ・避けられがちなテーマをほどこ(アート、宗教、学生の悩み、将来) ・他者交流の機会づくり(展示など) ・電子化の波で図書館は必要か?(絵本は別)	・イベント、ワークショップ、ファシリテーターとしての職員 ・コーディネーターの存在 ・ユニバーサルデザイン ・「りんごの棚」(アクセシブルな本棚)の設置 ・移動図書館と福祉との連携(施設や事業所へ) ・電子書籍の閲覧